



今日は、いい日だ

〈愛知県〉

あさの 浅野 春香 はるか 30歳

94歳のMさんという患者さんが入院していました。その方は、医師から余命数週間と言われており、自宅へ帰るのは難しい状態でした。ある日、Mさんからナースコールがあり、部屋に行くところ「もう死にたい！ 家に帰れないなら、首をつって死ぬわ！」と大声を上げていました。部屋には、3人のお子さまがみえ、皆さん、つらそうな表情をされていました。私はMさんの手を握り、思いを聞きました。

しばらく、お話を聞いた後、私はご家族に「皆さんで、Mさんの手と足を温かいお湯で洗いましょうか。きっと気持ちが良いですよ」と提案しました。それを聞いたご家族は「やりたーい！」と笑顔で腕まくりをされました。そこから、とても温かい穏やかな時

間が始まりました。次男さんは、ニコニコしながら、Mさんの足を丁寧に洗っています。「熱い？ 母さん、こんなにきれいで長い指をしていたんだね」と言いました。長女さんは、手を洗いながら、「本当にきれいな指」と。長男さんは「俺はいいよ」と少し照れた様子で眺めています。60代の息子さん、娘さんが、自分たちを産み、育ててくれた大切なお母さんの手と足を優しく見つめながら、感謝を込めて、丁寧に洗います。

すると、さっきまで眉間にしわを寄せ「死にたい」と大声を上げていたMさんの顔がだんだんと緩んでいききました。そしてMさんは、こう言ったのです。

「今日は、いい日だ」

私が働く大学病院では、病や死と

いった悲しい出来事は避けられませんが、でも、それらをただ「悲しいこと」と言い、やり過ごすのではなく、どうしたら、患者さんやご家族が少しでも楽になれるのかを、考えて考えて考える。それが、私たち看護師の大切な仕事です。

Mさんが「死にたいと思った日」。それは、息子さん、娘さんの力で、「いい日」に変わりました。この時、私は看護師をしていて本当に良かったと思いました。私にとっても、忘れられない「いい日」になりました。